

2022年 4 月 1 日

2021 年度 総合文化研究所研究助成報告書

研究の種類 ※該当する（ ）に ○を付ける	・共同研究（ ） ・個人研究（○）	
研究代表者 (所属・職・氏名)	家政学部被服学科・教授 長崎 巖	
研究課題名	近代女性着物における洋花模様流行の実態とその文化史的意義	
研究分担者氏名	所属・職	役割分担
研究期間	2021年4月1日 ～ 2022年3月31日	

研究実績の概要（1）

研究対象とする洋花模様の着物は、大正時代に流行したものであり、この前後の時代を含む時期に大規模に着物の販売を行っていた老舗呉服商、または呉服商から百貨店に転じた三越や高島屋、松坂屋、千総、丸紅などの資料館やこれに準じる機関に、文献資料やデザイン画、写真など所蔵・秘蔵されていると推測されたが、今年度も新型コロナウイルスの感染が収束しなかったことにより、感染防止についての配慮からこれらへの調査先への出張が行えない結果となった。

しかし可能な限りの文献調査や先行研究の調査に加え、大正時代を中心とする洋花模様の着物の実物資料を古美術商から適切な価格で購入することができ、研究室内において実質的な・研究を行うことができた。

また、長崎巖編著『日本の婚礼衣裳 寿ぎのきもの』（東京美術・令和3年10月）の執筆に際し、明治・大正・昭和時代の婚礼衣裳の植物模様の考察において本研究の成果の一部を反映している。

研究実績の概要（2）

研究発表(印刷中も含む)雑誌および図書

長崎巖編著『日本の婚礼衣裳 寿ぎのきもの』（東京美術・令和3年10月）